



JR 連合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を!!

2020 年度

No. 76

2021年2月12日

日本鉄道労働組合連合会

JR北労組「第18回中央委員会」

安全確立、2021春闘、政策・組織課題解決 にむけ力強く運動を展開していくことを確認!

JR北労組は2月6日、札幌市内で「次代を展望した労働運動を展開し安全最優先の確立と政策課題、組織課題を解決し、労働者の生活向上、JR産業の持続的発展を実現しよう!」をメインスローガンに、第18回中央委員会を開催し、当面する活動方針を決定した。



昆弘美中央執行委員長（JR連合副会長）は冒頭の挨拶で、単独維持困難線区をはじめとしたJR北海道の経営課題に関して、1月29日に閣議決定された「国鉄清算事業団債務等処理法の一部改正法案」の早期成立に、JR連合と連携して取り組む一方、「社員や自治体には、要請すれば国が支援してくれるといった『他人事』の風潮が蔓延していることを危惧している。経営が厳しくても、路線を維持して当たり前といった認識が潜在しているのではないか。通常は、赤字を抱えて企業が存続することはあり得ない」と指摘し、「JR二島・貨物経営自立実現PT」の提言に基づく取り組みの必要性を改めて主張した。また、昨年8月に発生した死亡労災に関して、「今一度、働く環境を見つめ直し、実効性ある安全対策を構築し、誰もが安心して働き続けられる環境整備が必要」との危機感を示すとともに、2021春季生活闘争については、JR連合方針を踏まえ、1,000円の純ベア要求を行い、「一職場10要求」とともにその実現に奮闘していくこと、そして、「組織春闘」と位置づけ、新規採用者の加入促進をはじめとした組織拡大行動に邁進していくとの決意を表明した。さらに、4月25日に予定されている衆議院北海道2区の補欠選挙については、政策課題の解決にむけた重要な取り組みとの認識の下、連合北海道と連携して対応していくと述べた。

質疑では、4名の中央委員から、エルダースタッフ社員の処遇改善や、組織拡大への課題等について発言があり、人見圭一書記長が答弁を行った後、すべての議案が満場一致で採択された。

その後、委員会宣言を採択し、最後に昆委員長の団結ガンバローで閉会した。